

# 動かしているのは市民多数の願い—太田市政の4カ月

## ● 子ども医療費助成の拡大へ ●

柏市の子ども医療費助成は現在中学3年生まで。高校卒業までの拡大は市長の公約です。市長は「現在の助成方式（受給券の発行で病院の窓口で助成される）で高3まで拡大したい。県と具体的な協議を行い、医師会にも協力を求める」と答弁し、実現に向けて取り組む姿勢を示しました。

## ● 学校トイレに無償の生理用品 ●



小中学校の女子トイレで生理用品の無償提供が始まります。流山市では、困ったときに使用していいことなどを説明し、保護者がつくったポーチに入れてトイレに設置しています（写真）。柏市は各学年1カ所を想定していますが、すべての個室トイレへの設置を求めています。

## ● 小中学校教員の増員 ●

日本共産党はこれまで教職員の負担軽減、一人ひとりの子どもたちに行き届いた教育を保障するため、市独自の教員増を求めてきました。いま、さまざまな事情で不登校や教室に入れない子が増えています。新年度は、こうした児童生徒に対応するための個別支援教員が24人から38人に増員されます。大きな前進です。産休や病休の代替教員が配置されないことも多く、学校は大きな困難を抱えています。日本共産党は、教員未配置をなくすよう県に強く求めています。

## ● パートナーシップ制度 ●

12月議会で、日本共産党は「日本で唯一男女共同参画条例のない千葉県に条例の制定を求め、柏市としても条例の制定を」「柏市でも全国に広がるパートナーシップ制度（同性婚や事実婚を認める制度）の導入を」と求めました。新年度予算には、調査・研修費が計上されています。日本共産党は、ジェンダー平等社会の実現、多様性と個人の尊厳を大切にす政治の実現に力をつくします。

## ● 公契約条例の制定に向けて ●

日本共産党は、公共工事・サービスの品質確保を目的に、従事する労働者の賃金や受注者の責任などを規定する公契約条例の制定を求めてきました。

太田市長は「野田、我孫子の条例が参考になる。本市でも、条例制定の必要性や内容について共通認識を図ったうえで議論を深めていきたい。新年度は第1段階として柏市と契約実績のある雇用主・労働者から賃金情報をはじめとする必要な情報の収集と分析に着手する」と答弁しました。



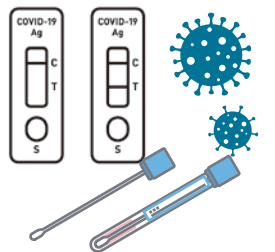
2月25日、柏市役所庁舎に「柏市気候危機宣言、ゼロカーボンシティへ挑戦します」の懸垂幕が掲げられました。12月議会で日本共産党が「温暖化の現状を認識し、柏市も気候非常事態宣言を」と求めていたものです。

## ● 新型コロナ対策 ●

1月に入り新型コロナの感染が急激に広がりました。子どもたちや教職員への感染拡大で、保育園の休園、学級閉鎖が相次ぎました。高齢者施設でクラスターも発生し亡くなる高齢者が増えました。

日本共産党は、感染症対策の基本である検査の拡充、保健所の体制強化を求めました。市は、「高齢者施設従事者への抗原検査を2週に1回で開始したが、市独自の判断で週1回行っている。無料PCR検査は今後も継続していく」と答弁。保健所に対しては市役所全体で支援体制をとっていますが、常勤職員を増やすなどの抜本的体制強化が必要です。

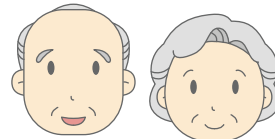
また、市内事業者への支援について太田市長は、「第6波の影響を踏まえた新たな経済支援について担当部署に検討を指示している」と答えました。



## ● 駅・市役所間のバスとシルバーパス ●

コミュニティーバスの運行（柏駅から市役所を経由して保健所へのルート）とシルバーパス（路線バス料金の高齢者割引制度）の導入のための調査費用が新年度予算に盛り込まれました。日本共産党が市民の皆さんとともに長年求めていたものです。

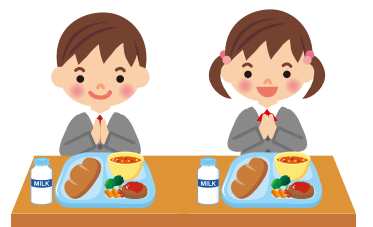
全国でも近隣自治体でも100円から150円程度で買い物や病院、公共施設などに気軽に行けるバスが運行されています。柏市でも実現すれば、高齢者はもとより市民みんなが元気になり、街の活性化にもつながります。旧沼南地域で試験的に無料で運行されていたバス



が、有料になった途端に利用者が減少し、やがて廃止になってしまった例をあげて、「利用されるかどうかの決め手は料金。運賃は100円にすべき」と3月議会では主張しました。

## ● 学校給食と市立病院 ●

太田市長が選挙で掲げた「学校給食の自校方式の維持」と「市立柏病院の現地建て替え」は、3月議会でも議論になりました。



学校給食は自校方式の維持について検証を行うため4600万円が予算化され、旧沼南地域を含め、学校別に施設や運用の状況を詳細に調査し

ます。沼南地域の学校給食センターは老朽化のため建て替えが必要で、用地取得と設計のための予算3億5000万円が計上されました。議会では「センター方式」に固執する意見がありましたが、自校方式が最良の方法なのは明らかです。沼南地域も含め自校方式の給食実施に向けた長期計画が求められています。

市立柏病院は2000万円の予算で新年度に基本計画を策定します。現地での建て替えに向け大きな前進です。市立病院はコロナ対応の当初



から発熱外来を実施し、第6波では46床の専用病床を確保しています。建て替えにより、感染症対応を強化し、災害の時には市民の命を守るとりでの役割が期待されます。

暮らしの何でも相談

わたべ 和子 事務所 7178・5155

くさかみ や子 事務所 7164・6870

ひらの 光一 事務所 7145・9672

武藤 みつえ 事務所 7170・6112

やざわ 英雄 事務所 7193・8175

サラ金・医療・介護・年金・税金・教育・子育て・ホームレス支援・生活保護地域の要求。お気軽に何でもござい！

上記各事務所または04-7176-3711へ